

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業
第3期中期計画フォローアップ（令和6年度実績）
【NISTEP】

1. 令和6年度における活動の概要
(総括)

①人材育成

(活動の概要)

(KPI の達成状況)

②研究・基盤

(活動の概要)

大学・公的利用機関に関するデータ整備については、大学・公的機関名辞書の更新・公開を行うとともに、利用者の利便性向上のための取組を実施した。大学・公的機関名辞書は、令和6年7月に更新版の公表を行った。また、Web of Science Core Collectionの名寄せ結果についても令和6年4月に公表した。大学・公的機関名辞書を用いた名寄せプログラムについては、前年度から引き続いて利用を希望するユーザによる利用を進めた。本年度は、本事業が終了した際にも継続して大学・公的機関名辞書の整備が可能となるよう、大学・公的機関名辞書への収録基準の整理、辞書を整備する際の出典情報(大学がウェブ上で公表している規程集等)の明確化を行った。

産業の研究開発に関する基盤的なデータ整備については、企業名辞書の掲載基準を新たにクリアした企業を追加して調査をし、企業名辞書の最新化を行ない、令和6年9月に公表した。また、本年度は、欧州特許庁が作成・公開している国際的な特許データベースであるPATSTAT Globalと企業名辞書のデータ連接を試行し、出願人の英語表記や住所情報の多くがNULLであるため、従来とは異なる接続手順の確立が必要となる等の問題点を確認した。さらに、政府の政策が産業に及ぼした影響・効果を分析するためのデータの整備のために、日本版バイ・ドール制度を適用した特許出願について、特許出願書類に記載された申告情報を用いてデータベース化を進めた。

政策形成に資する基盤整備及び総合的利用の推進については、科学技術基本政策に関する基本的な文書を収録し、検索できるシステムである「科学技術基本政策文書検索」を構築し公開してきたが、本年度は、統合イノベーション戦略2023を収録対象として追加した。また、継続的に更新してきた「科学技術・イノベーション白書検索」については、令和6年版についてのデータを更新した。

博士人材に係る調査研究としては、令和3年度博士課程修了者に対し、修了から1.5年後の雇用状況、待遇等の追跡調査を実施した。また、令和5年度に実施した「博士（後期）課

程 1 年次における進路意識と経済状況に関する調査」の結果を速報版資料として令和 6 年 6 月に公表するとともに、確定版となる報告書の分析、執筆を進めた。さらに、博士人材の活躍状況を把握する情報基盤である博士人材データベース（JGRAD）について、引き続き運用している。

NISTEP 定点調査については、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画中に行う NISTEP 定点調査の 3 回目となる NISTEP 定点調査 2023 の結果を公表した。NISTEP 定点調査 2023 では、基本計画中に継続的に問う定常質問に加え、調査時点の状況を踏まえ、①研究時間を圧迫する要因と研究時間確保に向けた取組、②科学技術を基にした地域創生、③論文のオープンアクセス義務化に関する現場の状況と意識についての深掘調査も行った。また、4 回目となる NISTEP 定点調査 2024 の準備及び実施をした。

(KPI の達成状況)

KPI は設定していない。

③共進化

(活動の概要)

令和 4 年 10 月から、C4RA（各大学等のリサーチ・アドミニストレーターが実務向上を目指して活動している有志の集まり）と月 1 回ペースで情報交換会（オンライン）を行い、実務実情及び機関名辞書活用向上に向けた知見を得た。大学のユーザを中心に、大学の下部機関についての情報の増強を望む意見が多かったことを踏まえて、本年度は大規模な大学について学科等レベルの情報の収集が可能かを検討した。

博士人材追跡調査等について、共進化の実現の観点から、行政ニーズに的確に応え、政策担当者との対話・連携を進めた。

(KPI の達成状況)

KPI は設定していない。

④ネットワーキング

(活動の概要)

令和 4 年 10 月から、C4RA（各大学等のリサーチ・アドミニストレーターが実務向上を目指して活動している有志の集まり）と月 1 回ペースで情報交換会（オンライン）を行い、実務実情及び機関名辞書活用向上に向けた知見を得た。世界の研究機関の識別とそれらのメタデータのオープンな提供を目的とするレジストリである ROR との連携を進めるために、ROR Annual Community Meeting において大学・公的機関名辞書の紹介を行った。

エビデンスに立脚した科学技術イノベーション政策の強化のためのデータ・情報の整備と活用の促進を目的として令和 2 年度まで開催していた「関係機関ネットワーク」の後継となる取組として、データ・情報の整備と活用に詳しい専門家との意見交換を行い、整備しているデータ・情報基盤のデータ構造の改善や国際的なデータ連携を可能にするための方法

等について検討した。

(KPI の達成状況)

KPI は設定していない。

⑤その他特記事項

特になし

2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

- ・データ・情報基盤の整備について、幅広い分析の基礎となるデータの整備を継続し、NISTEP の調査研究機能を強化し、様々な分析やより深い分析を可能とし、政策当局や外部機関等との協力や連携を進める。
- ・データ・情報基盤を整備するだけでなく自ら活用して調査研究を行うことで、データ・情報の機能や質の向上および活用促進につなげるために、発明者名寄せのアルゴリズムや知識生産のネットワークのハブとなる研究者を同定する方法等に関する研究を実施した。
- ・NISTEP 定点調査の結果は、各種審議会で活用された。また、大学・公的機関名辞書及び名寄せプログラムは、日本の科学研究力を検討する際の基礎的な資料(科学研究のベンチマー킹、大学ベンチマーキング、サイエンスマップ等)を作成する際に活用した。
- ・また、博士人材追跡調査 (JD-Pro)、修士課程在籍者調査 (JM-Pro) の調査結果は、総合科学技術・イノベーション会議有識者議員会合（令和6年7月）で使用された。さらに、博士人材データベース (JGRAD) に関連調査として実施した博士課程1年次向け調査の結果は、文部科学省内の政策形成の検討に利用された。加えて、経団連（日本経済団体連合会）が運営する「採用と大学教育に関する産学協議会」が2024年4月に公開した報告書においても、JGRAD および博士課程1年次向け調査の結果が紹介された。
- ・大学・公的機関名辞書やそれを用いた名寄せプログラムについては、本事業で得られた成果が継続的に利活用されるように、C4RA（各大学等のリサーチ・アドミニストレーターが実務向上を目指して活動している有志の集まり）との情報交換会等を通じて利用者や利用事例の一層の拡大を試みている。また、辞書への収録基準の整理など、大学・公的機関名辞書の整備を持続可能な形で実施するための方策についての検討を進めた。

3. 中期計画の見直しのポイント

特になし